

引 き 算

イラクでの日本人、人質事件で自己責任論が語られました。人質に責任はあったのか、それとも救い出すべきは、政府の責任だとか、あちこちからいろいろなことが言われました。又、責任の取り方もあるれこれと言われました。ところで人間は多くのことに責任をとつて生きてきたでしょうか。答えは『否』としか言いようがありません。いや責任を取りきれないのが、人間の歴史だったような気がいたします。アメリカの先住民族のナバホ族の言い伝えに次の言葉があります。『自然是祖先から譲り受けたものではなく、子孫から借り受けているものである』私はたち日本人は『先祖のおかげ』『先祖供養』などには大変敏感です。もちろん自分を生まれさせそして育ててくださった先祖の大切さは言うまでもありません。しかし子孫から借りているという発想はなかなか出来ません。しかもこの借り受けているものが、時代が進めば進むほど多くそして大きくなっているようです。もう自己責任によつて返せるようなものではないということです。

子孫が当然得られるべきものが、今の私たちが使いつくし、食べつくし、そして廃棄つくしているように思えるのです。今、問題になつていてる年金、食料、石油、自然、すべてを今の人間が食い尽くす勢いです。すべての問題は先送りにされているように思えませんか。なんと『自己責任』バッシングのいい加減なことでしううか。その場しのぎの対応でやつてきたツケはどこかで破綻いたします。まさに『無責任』そのものです。いいところはしっかりと取り、いやなことは先送り、子孫はたまたものではありませんね。今の人間が良ければというのは思い上がりも甚だしい事です。川には万年先までも予約が入つていた年ごとの増水 泣濫の予約 川神はきちんと約束を守つて デルタに豊饒をもたらした それなのにあらうことかさかしらぶつた人間はその約束を破壊したのだ 泣濫はもうけつこう 水量はわたしたちが調節します なんと恩知らずな 思い上がりった人間たち! 【多田美智子】私たちの祖先は自然と折り合いをつけて生きてきたのです。西洋的な発想からすれば、非合理的または損な生き方なのかもしません。手先が不器用になつた、人間関係が下手になつた、自然に感動することが少なくなつた、そして生きていることの感動がなくなつてしまつた、という現象があちこちで見受けられます。五木寛之さんの「他力」や瀬戸内寂聴さんの本が売れたり今までの足し算文化の限界に誰もが『何かおかしいぞ』と気づき始めているようです。仏教は引き算なのかもしれません。自己責任』を取れないお粗末な私、生きていることはいただいている『いのち』ということ。そんな謙虚さこそが、人間のたくましさ、強さではないでしょうか。思い上がりを打ち砕き、そんな私を見捨てない働きを阿弥陀如来の『本願他力』と申します。